

会報

2003. 9. 20

第 35 号

戦没船を記録する会

〒105-0014 東京都港区芝2-8-43 睦マンション206
Tel:03-3452-5085 FAX:03-3452-2711 郵便振替001606-719515

目次

第10年定期総会を開催	1
第10年度活動方針・第9年度活動報告	2
漁船の太平洋戦争展の開催に思う	3-4
埼玉の戦争展	4
南の崖に水漬く弟	4-5
父の戦死した船探して	5
よこはまの戦争展	5
多彩に清水・焼津の戦争展	6
第9年度収支報告	6

第10回定期総会を開催

「10年史」刊行に着手

戦没船を記録する会の第10回定期総会が、4月26日、東京の浜松町海員会館に、役員や会員の実出席22名、委任出席53名によって開催され、第10年度活動方針などが決定された。

会議は篠原常任理事の司会で始まり、会長挨拶、第9年度活動報告・決算報告、第10年度活動方針の順に審議が行われた。(方針・報告は別項)



「10年史」の刊行

方針案には書かれなかった10年史の刊行については、川村副会長から提案説明がなされた。

刊行の主旨については「本会は発足以来10年という節目を迎えているが、活動報告にもあったように、創立以来具体的な事業の推進や会の運営に中心的に係って努力してこられた方々が、高齢化で総会にも参加出来なくなったり、退会する状態になっている。この10年を振り返れば、相当激しい10年間であったと思う。こういう歴史的な経緯をまとめて記録に残すことが、これからの活動にとって有効なことではないか。

幸い本会には、そういう物を書くのには有能な方々がたくさんおられるので、この方々の協力を得れば、それなりのものが出来ると思う。そのための必要経費は、出来た本を販売するとか、カンパを募るなどの予算措置を講ずれば出来る。

刊行については遅くとも今年度中に出すことにして、具体的な取組みについては、『10年史刊行委員会』的なものをつくって対応できるのではないかなどと説明され、討論の結果決定された。

漁船の太平洋戦争—気仙沼展

昨年の組合大会でのパネル展をきっかけに、気仙沼でのパネル展開催計画が具体化し、総会の方針に盛り込まれ実行することになった。

川島会長挨拶

本日は総会にご出席下さり、有難うございます。今日私は、30分くらい早く出てきまして港を見て参りました。若いとき日本1週航路をしていて、よく北海道から材木をデッキに山積みにして東京港に入り、海面に落し筏にして引っ張って行きました。

ところが今見たら係船ブイなんかなくなって、船は晴海の方に1隻見えただけでした。港の風景が変わってしまって、本当に寂しいかぎりでした。

20世紀がああいう戦争に明け暮れたことから、21世紀は戦争も混乱もない平和な世紀にしたいと願い、想いを持っておりますが、21世紀初頭の2001年に、想像もつかない事件が発生しました。

テレビを見ていたら航空機がビルに突っ込む、戦争でもあんなのはなかった。焼夷弾や爆弾でもあれだけのビルが破壊される光景は見たことがない。そして、それに対する報復攻撃がなされる。何とも大変な状況になっております。

この会の活動も10年になりますが、平和を願っての活動であります。時代にふさわしい活動でなければならぬと思っております。差し当たり私どもは、半世紀前の戦争で戦没船を検証し、犠牲となった船員の霊を慰め、この悲劇を繰り返してはならないと活動して来ました。これからも続けていきたいと思っております。

これから10年度に入る区切りの年であります。皆様のご活躍をお願いいたします。

第10年度活動方針

米・英対イラクの戦争や北朝鮮の動向は、世界の平和と人類の安全が著しくおびやかされる状況にあり、特に海上の平和と安全の大きな脅威となっている。こうした状況に鑑みわれわれは、再び戦没船を生じさせないために、他の団体等とも協力して、海上の平和と安全を守る運動に、積極的に取り組まなければならない。

- 1、本会の作成した戦没船の写真や、関連資料をデータベース化して、インターネットなどを通じて、公開するための準備を進める。
- 2、戦没船アルフォト写真を点検、破損品を新替え、整理する。関連資料を整理し、展示用に項目別、年度、地域別などに仕分けする。また、従来掘り起こしが不十分であった漁船・機帆船関係の資料収集に努める。
- 3、各地のパネル展に協力すると共に、昨年出来なかった本会独自のパネル展の開催実現に努める。
- 4、戦没した船と海員の資料館の維持発展のために、海員組合と協力し引き続き努力する。
- 5、海上労働ネットワークをはじめ、関係友誼団体の活動に協力する。

第9年度活動報告

1、組織の状況

本会の会員で高齢化や病気を理由に退会する人が増えているが、運動の面、財政の面でも現状を維持するために努力が必要である。

今年3月末の会員数は正会員は75名、賛助会員は42名である。また、この1年間の収入は80万円余、支出は46万円余であった。

2、事業の内容

戦没船と戦没船員に関する資料の収集は、引き続き続けられているが、今年は初めて海外から、本会に対して直接、戦没船の動静に関する問い合わせがあった(会報34号所載)。関西支部で「傘捕船」の資料収集が続けられたが、戦没船員の追跡調査や戦没船の調査要請などは、減少の傾向にある。

また、有事法制反対やイラク戦争反対などの集会や行動、えひめ丸の原因究明と補償問題などの運動に、会員有志が積極的に参加している。

本会独自の戦没船パネル展は実現出来なかった。そのため、各地の「平和のための戦争展」などへの参加に留まった。主なものは次のとおり。

平和のための戦争展・横浜

『2002平和のための戦争展 IN よこはま みつめよう、語り合おう、戦争の過去といま』をテーマに、8月9日から11日の3日間、横浜駅西口の「かながわサポートセンター」で開催された。本会は95年以来毎回参加し、記録する会のコーナーには、会員有志が説明員として待機し、見学者に対応してきた。今年は入場署名者が1700人あり、署名しない人を含めると約5000人が参加したものと予想される。

平和のための埼玉の戦争展

「2002平和のための埼玉の戦争展」は、7月25日から29日までの5日間、浦和駅前の「コルソ」8階の展示場で開催された。戦没船を記録する会の参加は3回目になるが、「持込みグループ」として、会場の一角に次のようなテーマの展示を行った。

第2次世界大戦後の戦争・紛争・兵器による船舶、船員(日本人乗組)の被害 = 新企画 徴用漁船 -- 小さな小さな船までも = 新企画 対馬丸撃沈の大惨事
戦没者の多い船一覧表 戦没船アルフォト写真 = 54隻 攻撃を受ける日本商船 = 米軍撮影の写真10枚 日本商船隊の最後 = 大久保画伯の絵画写真10枚。

夏休み中のこともあって、中・高校生や小学生の親子ずれも多く、期間中の参観者は1万5千人に及んだ。とくに中・高生は夏休みの研究課題のテーマとしている様であった。そして、なぜ、船員は軍人よりも死亡率が高いのか。なぜ、沈められるのが分かっているのに出ていったのか。徴用漁船は何をさせられたのか。なぜ、日本は米軍のような戦闘写真が無いのか。などの質問が出された。

全日本海員組合大会のパネル展

全日本海員組合の定期全国大会が11月5日から4日間、ホテル・マリナーズコート東京で開催され、本会は会場の一角にパネル展示場所の提供を受け、大戦後の商船・船員の戦争・紛争による被害一覧表、戦争と船員、などのテーマで展示を行った。

同時に、本会の副会長で01年4月に逝去された浦田乾道さんの追悼文・遺稿集「追悼・浦田乾道」や、本会の前常任理事の中原厚さんの詩集「一匹の黒い人魚の歌」の頒布が行われた。

3、会報の発行

戦没船を記録する会の会報は、第32号(02年6月20日) 第33号(02年12月10日) 第34号(03年3月31日)の3回の発行に留まった。

4、財政の状況

収支報告は6頁に掲載。

「漁船の太平洋戦争」

「気仙沼展」の開催に思う

気仙泊地方 海友会世話人代表 斉藤民夫

私も人並みに老いて、過ぎ去りし日々を思いを深めることが多くなった。私が気仙沼中学校に入学した年、支那事変が太平洋戦争へと拡大した。緒戦の勝利は一時で、次第に戦況は激しくなり、田舎の中学生の我々にも勤労働員令が下り、横浜市の際に住み、芝浦の軍事工場で働く。同級生たちも「忠君愛国」の思いで軍関係の学校に十数名も進学した。

しかし、次第に戦況は悪化し、遂に米軍は昭和20年4月沖縄本島上陸、そして、8月6日に広島市、続いて9日には長崎市にも人類初の原子爆弾が投下され、一瞬に多くの死者がでた。私は海軍兵学校の生徒として、昭和20年8月15日の終戦の玉音にしばし茫然となった。帰途には空襲による悲惨な光景を眺め、敗残の身で我が家の庭に立つと、米機襲来による弾痕に驚いたことは今も忘れない。

数日後、心が落ち着き、久方ぶりに目の前の海で泳ぎながら、今後は平和の海に生きることを誓った。幸い現東京水産大学に転入学し、翌年の夏に、生まれて初めて小型のトロール漁船で、松島湾での大漁の喜びを満喫する。敗戦後の混沌とした時代だけに平和な海にあこがれ、昭和25年卒業後は南氷洋捕鯨船に乗船が決まる。しかし、病身の父の反対で、地元の水産高校に5年勤務する。退職前の29年春、戦後初の実習船宮城丸(221トン)に、生徒9名の指導教官として乗船。その南下途中、3月1日にアメリカの「ビキニ島の水爆実験」に出会う。幸いにも全員元気で、丸2ヶ月の練習航海を終える。

父の死後、30年の春に教員を辞め、地元の北洋サケ・マス独航船に、一船員として北洋の海にサケ・マスを追う。この航海は私の人生最大の苦難ともなる。引き続いて大型マグロ船でインド洋からニュージーランド沖、西経海域にマグロを追いながら、時には十数年前の太平洋戦争の苦戦、敗残に生きた先輩たちを偲びながら、平和の海での豊漁に感謝したものである。

悲しくも海に消えた先輩たち

私の小学生時代に支那事変、中学時代は太平洋戦争と戦場は拡大した。無謀で苦難な戦争だけに漁船、商船関係者の犠牲は大きかった。昭和20年8月には終戦。記録によると戦前の漁獲量の432万トンと激減し、漁船の喪失は推定7万隻、53万トンと

もいわれている。気仙沼市史の産業編の私の執筆は、戦後史だけに戦争に関する記録は一切ない。今回、攻めて初代宮城丸(県指導船)の沈没の事実を再確認した。初代宮城丸(284トン)は、昭和17年徴用され、19年8月4日小笠原群島海域を航行中、敵潜水艦の魚雷攻撃を受け、撃沈されて20数名が戦死している。

今、気仙沼市史や唐桑町、目の前の大島の「宮城県軍連盟大島支部」が編集した「海ゆかば」などの「従軍戦記」を読むとき、戦争の残酷さ、正に「死の記録」に涙がこぼれた。一家を支えていた漁船員たちは、どんな思いで海に散ったのだろうか。今、改めて祖国のために散った多くの先輩船員の真実を伝える著書を読んで、我が身の不明を恥じている。幸い、私の心を慰めてくれる海の先輩たちの会の存在を知った。その名は「戦没船を記録する会」であり、「財団法人 日本殉職船員顕彰会」である。東京湾口の西側の観音崎公園内には「戦没船員の碑」が昭和44年に設立され、毎年5月中旬には「戦没・殉職船員追悼式」が行われていることも知る。今年5月15日に行われた式典は第33回を数え、十年の節目には天皇陛下をはじめ皇太子、同妃殿下も行啓されておられる。気仙沼市には気仙沼湾の入口、景勝の岩井崎の墓地公園内に、市民みんなで立てた「海の殉難者慰霊塔」は、太平洋を目前に立つ。これは昭和50年(1975)に建設され、毎年9月26日に市内の寺の住職の方々によって、厳粛な法要が行われている。雨天の時には、近くにある水産高校の屋内体育館を使わせて頂く。私自身、戦後の平和な海で働いたせいか、海に殉じた多くの先輩、教え子たちを思うとき、いつも「決して海で死んではならないし、死なせてはならない」と言い続けてきた。今回、中央から送られた資料を眺めながら、一層その思いを深くするのである。

平和な海に安らかに眠れ

気仙沼市には「徴用船の被害」を執筆された、元気仙沼市の職員で特に「太平洋戦争と漁船」に詳しい小松宗夫氏がおられる。その著書の「海鳴りの記」を攻めて読み直した。その中の「海ゆかば」の項は「漁船の徴用」の記録である。

開戦当初は約600万トンの商船隊を持っていたが、軍は6割余りを作戦用に徴用し、兵員輸送に当てたが、翌17年3月から漁船徴用を開始して、哨戒任務につかせた。横須賀鎮守府所属の「黒潮部隊」で、沖合200海里を幅20海里間隔で米海軍の進入を見張った。

(中略)

敵を発見すれば打電することとされ、各船の無線

通信士は極秘の暗号表を渡され、船員たちは電報1本で船もろとも徴用されていた。身分は主に海軍軍属である。徴用船の主なものは気仙沼港の100トン級で13隻、唐桑港は7隻であるとも書いてある。支那事変では既に50トン級4隻が中国に向かって

いる。
昭和17年2月から米海軍が日本本土空襲を企て、2月1日、空母2隻を中心に15隻の機動部隊が南島に接近。哨戒中の唐桑の千代田丸が打電したとたん、米軍機が飛来して「ワレ交戦ス」と打電して姿を消す。太平洋戦争被害船舶の第一号。その「海ゆかば」にはこのような記録がいくつも並ぶ。日本の漁船と米艦隊との戦いの勝敗は明らか。決死の船員の活躍があればこそ、本土防衛に大いに役だったことは言うまでもない。

海の先輩たちが祖国防衛の必至の戦いや、「米機が遂に東京空襲を実行する。哨戒の黒潮部隊がその空軍の標的」などの記事には慰める言葉もない。終戦の昭和20年、世界に誇ったわが連合艦隊は姿なく、米機の空からの2発の原子爆弾によって、遂に8月15日をもって終戦となる。

「海ゆかば」の結びには、「漁業の主力の船員が、唐桑と大島でそれぞれ百余名、それは軍人の戦死者に劣らない数字である。」と言い、「国の興廃をかけた戦いだが、漁船のすべてもまた海に殉じた例は、古今の史上にその類をみない」と結び。

今回初めて中央から戦没者名簿(支那事変から終戦まで)が送られて、改めて戦争の悲惨で残酷さを教えられる。私たちは二度と再び、愚かな戦争を絶対してはならない。「漁船の太平洋戦争・気仙沼展」開催については、大いに賛成いたし、気仙沼地方の全「海友会」は誠心誠意をもってご協力する覚悟である。海に生きた先輩たちの、ご教導を頂ければ真に幸いです。(平成15年6月27日)

『漁船の太平洋戦争展』

期日 2003年9月24日～28日

場所 気仙沼市「海の市」2階

展示内容

* 漁船の太平洋戦争 * 戦没した日の丸商船隊 * 軍艦に改装された商船 * トラック島の戦没船 * ガダルカナル島の戦跡 * その他

2003 平和のための さいたまの戦争展

7月から8月にかけて、日本各地で平和展、戦争展が開催される。

本会もさいたま市の「平和のための戦争展」に出展してから5年、5回目を数える。記録する会は戦争で沈んだ船をメインテーマに、写真、年表などを本年も展示した。

今年の大きな柱は、今まであまり知られていない漁船が、どう戦争に係ったか、漁船の被害、隻数等々、各理事らのご協力により、7メートルの展示スペース一杯に、5日間展示することが出来た。埼玉県は海のない県だけに、見に来られる方々の質問も多い。中・小・高校生の来館者も多数あった。

埼玉展の主な内容は WAR IS NOT THE ANSWER (戦争は答えではない)等8つのグループがそれぞれのテーマで展示したが、本会は「漁船の太平洋戦争」を中心に戦没船アルフォート写真や「戦時徴用船の最後」、その他を展示した。(桑島)



南の涯に水漬く弟

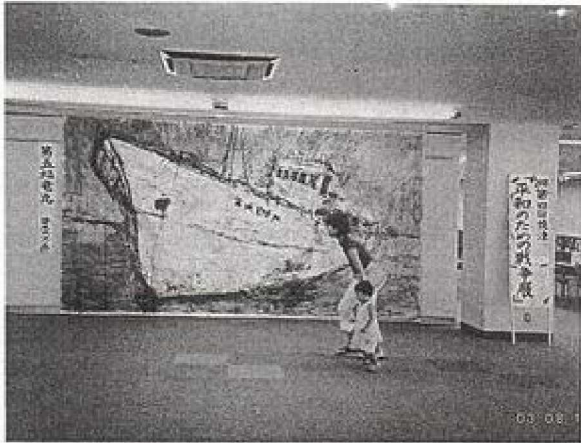
ここで、ある遺族の方のお話を紹介します。

会期中に年配の方がお見えになって、「昭和19年6月20日、ミンダナオ島サランガニ海峡で雷撃を受け沈没した船の船名を知りたい。その船に弟が乗船していて戦死したのです」と質問されました。

多彩に -清水・焼津の

「平和のための戦争展」

今年8月の初旬から下旬にかけて、静岡県下では静岡・清水をはじめ、9カ所で「平和のための戦争展」が開かれた。その他、この戦争展に関連して、「原爆と人間展」、「平和のための文化祭・写真展・合唱祭・映画会・講演会などが10数個所で開かれた。



私たちの「戦没船を記録する会」の展示品は、埼玉の仲間たちがレイアウトしてくれた資料やパネルを、清水展と焼津展に振り分けて展示された。

第5回清水平和のための戦争展では約1000人、第4回焼津平和のための戦争展では、台風のため昨年より若干少なかったが1650人が参観した。

清水展の特徴は、『借物でない』『市民による生の情報・資料を』ということ、で、「戦没船を記録する会」の展示品も、展示列の中央に、人間魚雷の模型や、病院船の船内で傷病者を介護する看護婦たちの写真などと共に展示され、広く市民の注目を浴びた。

焼津展では第1テーマとして、第5福竜丸のピキ二被災50周年に当たるので、その記念展示品と共に、第5福竜丸元漁労長見崎吉男さんの証言があった。また、第2テーマとして、太平洋戦争の徴用漁船の顛末、例えば「特設監視艇隊」いわゆる「黒潮部隊」の資料・遺品・記録などの展示と共に、戦時艦船史家・高橋磯逸さん(本会会員)の講演が行われた。

私たちの提供した展示品は、このような意義深い記念展に参加して、多くの市民の皆さんに見てもらい、地元マスコミの報道も広く反響を呼んだ。最後に両所の実行委員会から、丁寧な感謝の言葉をいただいたことを報告しておきます。(静岡・小林)

第9年度収支報告書

基本会計 (2002年4月～2003年3月)

科目	入会金	繰越残高
前年度繰越	150,000	
入会金		
合計	150,000	150,000

一般会計

科目	収入	支出
前年度繰越	184,568	
会費	347,000	
賛助会費	127,000	
寄付金	331,800	
事業収入	2,000	
雑収入	63	
通信費		46,890
会議費		29,950
印刷費		34,880
事業費		49,319
交通費		2,600
事務所費		240,000
雑費		61,566
繰越金		527,226
合計	992,431	992,431

繰越金内訳

科目	基本会計	一般会計
現金		82,575
振替貯金		288,235
銀行預金	150,000	30,114
同		126,302
合計	150,000	527,226

【財政の状況について】

この1年間の会費収入は、正会員、賛助会員合わせて、474,000円で、納入人員は正会員56名、賛助会員32名であった。

昨年は会費納入呼びかけの手違いで、例年に比べて極端に落ち込んだ(合計102,000円)が、今年度完全に復活することは出来なかった。収入全体としては、大口の寄付があったため、ほぼ例年並みとなった。

近年は高齢化や健康上の理由による退会者もあって、若い新加入者を迎えないかぎり、会の運動も、財政的にも困難になるものと思われる。

【理事の退任について】

今年は役員改選の年ではなかったが、以下の方が理事を退任されました。長年にわたりご協力を有難うございました。総会では役員の補充は、次期改選時まで行わないこととしました。

田中 省吾氏 2003年4月4日 ご逝去
田中 正八郎 健康上の都合で退任

【気仙沼展について】

昨年来話が進められてきた「漁船の太平洋戦争・気仙沼展」は、地元の気仙沼地方海友会(気仙沼、唐桑、大島、大谷)と協力して準備を進め、いよいよ開催のはこびとなりました。漁船を中心テーマにした展示会は初めてで、ぜひ、地元の大勢の人たちに見に来てもらいたいと願っています。(篠原)